7月17日のメッセージ

聖書:ガラテヤの信徒への手紙 5: 2-11

「わずかなパン種が」

「あの者は、異邦人や王たち、またイスラエルの子らにわたしの名を伝えるために、わたしが選んだ器である。」(使徒言行録 9:15)。パウロは精力的に、また積極的に神を宣べ伝えていました。アンティオキアの会堂でも、説教を依頼されるほどです(「兄弟たち、何か会衆のために励ましのお言葉があれば、話してください……」使徒言行録 13:15)。

しかし、全てが順風満帆だったというわけではありません。イエスはこうも言われています。「わた しの名のためにどんなに苦しまなくてはならないかを、わたしは彼に示そう」(使徒言行録 9:16)と。

パウロを悩ませたのは論敵たちの存在でした。イエスの復活を信じない、イエスをキリストと認めようとしない人々は、民衆を扇動してパウロたちに悪意を抱かせることもありました(「……信じようとしないユダヤ人たちは、異邦人を扇動し、……悪意を抱かせた。」使徒言行録 14:2)。そのような外部からの圧迫に対してパウロたちは勇敢に立ち向かい、ますます精力的に神を宣べ伝えたのでした。

一方、内部からの圧迫もパウロを悩ませる原因の一つでした。例えば、一部の信者たちは、ユダヤ人と同様、割礼を受けていなければ救いに与ることができないと主張していました(「……ファリサイ派から信者になった人が数名立って、『異邦人にも割礼を受けさせて、……』」使徒言行録 15:5)。

これに対してパウロは、割礼の有無が問題なのではなく、愛の実践こそが大切だと反論します(「キリスト・イエスに結ばれていれば、……」ガラテヤの信徒への手紙 5:6)。外面的に統一されることよりも、内面的に成長していくことこそが大切だ、と。

イエスもしるしを求める人々のことを嘆かれています(「イエスは、心の中で深く嘆いて言われた。 『どうして、今の時代の者たちはしるしを欲しがるのだろう。……』」マルコによる福音書 8:12)。形 やしるしは何となく安心感を与えるものです。しかし、そこに安住し、留まってしまうことが問題で す。一度与えられた救いに固執し、未来を生きようとしなくなります。

ましてや、それらしい顔をして近づいてくる、しるしのように見せかけているものはもっと危険です(「……偽りを預言し、自分の心が欺くままに預言する預言者たちは、互いに夢を解き明かして、わが民がわたしの名を忘れるように仕向ける。……」エレミヤ書 23:26-27)。それは、心地よい語りかけで人の心を惑わせます。「わずかなパン種が練り粉全体を膨らませる」(ガラテヤの信徒への手紙 5:9)ように、人を神から遠ざけるのです。

イエスもまた、パン種に注意せよと言われています(「……『ファリサイ派の人々のパン種とヘロデのパン種によく気をつけなさい』と戒められた。」マルコによる福音書 8:15)。その言葉が、その教えが本当に神からのものか吟味せよ、と。自分に都合の良い解釈に陥らぬように気をつけよ、と。

神は常に、神ならぬものに立ち向かわれます(「見よ、わたしは偽りの夢を預言する者たちに立ち向かう、と主は言われる。……彼らはこの民に何の益ももたらさない、と主は言われる。」エレミヤ書 23:32)。人のためにならぬものに対して、敢然と立ち向かわれるのです。そして民はいつもその神の姿を見て、神を畏れ、神に従ってきました(「これを見て、神に従う人は神を畏れる。……」詩編 52:8-9)。

様々な情報に溢れる今という時代だからこそ、しっかりと神に聞きましょう。 そうして聞き分けた「良いパン種」は、わずかであったとしても私たちを豊か に膨らませるはずです。愛を実践する私たちへと造り替えられていくのです。

